

## 憲法署名京都実行委員会の組織的発展のために（討論のお願い）

2004年4月22日に結成された「戦争のない世界へ！平和憲法を生かし、憲法九条改悪に反対する署名運動京都実行委員会（略称 憲法署名京都実行委員会）」は、2004年5月3日から「平和憲法を生かし、憲法九条改悪に反対する請願署名（憲法署名）」運動に取り組み始めました。この憲法署名運動は、当時、国会では改憲勢力が多数を占め、自民党が新憲法草案を発表しようとしていた時期であり、こうした改憲勢力の前に立ちはだかり、国会での憲法改定の発議を断念させることをめざし、仮に国民投票に至ったとしても憲法9条の改悪を阻止することを目的としたものでした。

憲法署名京都実行委員会は、過半数の京都府民の皆さんから憲法署名を集めようという目標を掲げ、その目標を達成するために、憲法学習会に取り組んだり、毎月9の日に街頭で署名宣伝行動をしたり、それぞれの憲法9条改悪反対の活動や憲法署名活動の経験を交流したりしてきました。そして、2005年10月27日、それまでに集めた17万8537筆の憲法署名を国会へ届け、引き続き、現在も憲法署名運動に取り組んでいます。

また、2004年6月に「九条の会」が発足するや、同会が発表したアピールに賛同する声明を直ちに発表して記者会見し、「九条の会発足記念京都講演会」を企画、遂行し、京都府内各地で結成される地域、職場の「九条の会」との連携、協力をはかり、事実上、それらの会相互の経験交流の場を提供してまいりました。

同時に、京都における様々な団体、グループとの共同の輪をさらに大きく広げようと、11月3日や5月3日の憲法記念集会などでは、縁の下の力持ち的な役割も果たしてきました。2007年5月3日の平和憲法60周年のつどいは、2460名を超える多数の参加者によって大きく成功させることができました。

この間、京都においても350を超える「九条の会」が結成されるなど、草の根から立ち上がってきた様々な団体、グループから、それぞれの活動のさらなる発展を願い、相互に連携を強め、深めていく要望が出されてきています。

一方、憲法とりわけ9条の改「正」を掲げる安倍内閣は、教育基本法を改悪し、憲法改正国民投票法を成立させ、3年後には、改憲勢力が狙う憲法改「正」のための国民投票を実施することができる事態になっています。そして、自民党は、国会の多数だけでなく、衆議院の小選挙区ごとに国民投票の会をつくり、憲法改「正」に向けた国民運動を盛り上げようとしてきています。

このような状況の下、憲法9条の改悪を阻止するために、これまで以上に幅の広い、草の根から憲法運動をさらに大きく広げていくことが求められています。そして、憲法署名京都実行委員会は、これまで京都で果たしてきた役割や到達点を踏まえ、組織的にも運動的にもさらにこれを発展させることが大切であると考え、これからの運動の課題やその運動の展開にふさわしい組織のあり方などについて議論を深めてきました。

教育基本法改悪と国民投票法成立という新たな情勢を踏まえ、憲法9条改悪阻止運動の本格的な京都のセンターを、これまでの様々な取り組みを通じてつながりを持ち始めた多くの皆さんと一緒に議論し、そして一緒に創り始めていきたいと考えています。

憲法改「正」の動きを憂い、少なくとも憲法9条は変えてはならないと思っている個人、団体、グループの人たちと、もっとしっかり手をつないで、さらにその輪を広げて、憲法9条改「正」案を発議することができない状況をつくりあげていこう、仮に発議されても9条の改「正」は絶対に阻止しよう、それが共通の思いであり一致点であると確信して、憲法署名京都実行委員会の組織的発展のための討議をお願いするものです。